

次 号 予 告

特集 イジングマシンとOR

- 量子アニーリングと組合せ最適化.....倉又迪哉・中田和秀（東京工業大学）
イジング計算を用いた暗号解析について.....山口純平・伊豆哲也（富士通株式会社）
電力市場取引のための需要家側エネルギーリソース運用制御手法
.....吉田 彬・天野嘉春（早稲田大学）、柏川貴弘・木村浩一（富士通株式会社）
機能性有機材料の探索のための機械学習とデジタルアニーラの活用事例
.....畠山 敏（早稲田大学）、柏川貴弘・木村浩一（富士通株式会社）
第三世代デジタルアニーラーハイブリッドソルバ技術とその性能—
.....宮澤俊之・小山純平・Matthieu Parizy（富士通株式会社）
デジタルアニーラのアーキテクチャと将来展望
.....田村泰孝（株式会社DXR研究所）、神田浩一・片山健太郎・印 芳（富士通株式会社）

機関誌バックナンバーのWeb掲載について

機関誌のバックナンバーを学会ホームページに掲載していますのでご活用ください。https://orsj.org/corsj-backnumber
会員限定ページの閲覧には、ユーザー名とパスワードの入力が必要です。【ユーザー名】XXXXXXXXXX 【パスワード】XXXXXXXXXX

編集後記

●機関誌5月号の特集は例年関西支部が担当させていただいています。今回は2021年12月にオンサイトとオンラインのハイブリッド形式で開催した支部シンポジウム「確率モデルの躍動」での講演を中心に、確率モデルに関する6編の解説をご紹介させていただきました。確率モデルの対象は多岐にわたり、ファイナンスや無線通信ネットワーク、ソフトウェア・バグ、サプライ・チェーン、ヘルスケア、レベニューマネジメントといった応用例が示されています。多種多様な対象を取り上げていますが、対象の不確実性を支配する法則を数学的に明らかにし、予測や設計、開発に役立てるという目標は共通しています。

●最近のことですが、短期間のコースで確率と統計を

教える機会があり、準備のために複数の教科書を紐解いていると、確率と統計は相補的な関係にある、という記述に目が留まりました。今更ですが、なるほどと納得させられました。最近はデータ駆動型のアプローチが主流となって久しいですが、そこで得られる相関関係の結果は因果関係を表していないことに注意する必要があります。確率モデルを考える重要性は、まさにこの因果関係を捉えるところにあります。今回の確率モデルの特集で、確率モデルの今を理解いただき、さらには確率モデルの考え方やアプローチをデータ分析にも役立ててもらうことを願ってやみません。

（笠原正治）

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委 員 長 野々部 宏司（法政大学）
関西支部編集委員長 笠原 正治（奈良先端科学技術大学院大学）
オ ー ガ ナ イ ザ 北條 仁志（大阪公立大学）
関西支部編集委員 井上 真二（関西大学）、小出 武（甲南大学）、中西 真悟（大阪工業大学）

本誌に掲載された記事についての著作権は、公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

令和4年5月号 第67巻 第5号 通巻737号

代 表 者 田 口 東

発 行 所 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032
https://orsj.org

編 集 人 野 々 部 宏 司

発 売 所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 〒151-0051

- ・本誌購読のお申込みは、日本オペレーションズ・リサーチ学会へ。
- ・本誌への広告のお申込みは、明報社（Tel 03-3546-1337）へ。